特殊塗装のレジェンド、"すご技職人"養成へ

ARACO（京都）・荒木俊成氏

時を経た趣の「エイジング（古風塗り）」、木目や石目を本物そっくりに描く「フォーフィニッシュ（疑似仕上げ）」など塗装ならではの表現力が魅力の「デコラティブペイント（特殊塗装）」の世界。その技を極めたレジェンド・荒木俊成氏が後進の指導に乗り出した。同氏が会長を務める建築塗装会社のARACO（京都府八幡市）は先月、「特殊塗装ーすご技職人養成塾」を開講、特殊塗装の"技の伝承"が始まった。

◇

「特殊塗装ーすご技職人養成塾」は今春の第1回目に続き、10月20日～22日にかけて第2回目がARACOの作業場で開かれた。荒木俊成氏が直接指導するため少人数制、各回10人前後が受講。そのほとんどは現役の塗装職人で、「特殊塗装の技を学んで、職人としての可能性を広げたい」（受講者）と北海道や沖縄からも駆けつけた。

講座では、木目や石目や金属調などの疑似塗装、錆や汚れやアンティークな風合いのエイジングなど特殊塗装の工事で多用される各種の技法を学ぶ。

例えば最初の課題の「木目」の疑似塗装はこんな具合だ。「より本物らしい木の表情に見せるには、木目の間のディテールまで表現すること」と、木目の間の微細な導管の描き方を伝授。毛先のしなる長い刷毛の腹で塗面を叩いて細かい導管を表現、「少し引きずることを意識しながら叩くのがポイント」と、"感覚"を伝えることに重きを置くのが荒木流のレッスンの特色だ。

木の導管を描く"感覚"を伝授

雲を表現する筆運びを指導

続く課題の「雲」の描き方では、筆運びの"感覚"が伝えられる。あらかじめ空色に塗った台紙に白い塗料を乗せ、「筆の先で塗料を押しやるように叩きながら塗り広げていく」と筆運びを見せながら指導。筆の動かし方だけでハイライトと影のコントラストや雲の厚さを感じさせるグラデーションを表現、「（白の）1色だけで2色にも3色にも見せる、デコラティブペイントの要素が凝縮された技法」と核心に触れる。

塗った塗料を水でぼかす「カラーウォッシュ」、乾いた筆（刷毛）に塗料を乗せてかすれるように描く「ドライブラシ」、ボロ布で叩いて表情を出す「ラギング」、海面やスポンジを操る「スポンジング」、塗料を塗り重ねた表現の「ポジティブ」や、逆に拭き取って表情を出す「ネガティブ」などなど、多種多様な技法を学びながら特殊塗装の奥深い世界に引き込まれる受講者たち。

加えて、"塗装職人の視点"が込められているのも荒木氏の講座の特色だ。それが端的に表れているのが使用しているベース塗料。

一般的にEPが多用される特殊塗装において、荒木氏はあえて外部用の水性シリコン塗料を使用。「一般の塗装の何倍もする施工単価のため、できるだけ長持ちさせたい」という施主や発注者への配慮と、「汚れが拭き取りやすく、金属や樹脂製の下地にも直接塗れるなど何かと便利」といった職人目線での塗料のチョイスだ。

「特殊塗装のテクニックだけでなく、ケースバイケースでの下地処理の方法など実際の現場の知見も盛り込まれているので自分たち塗装職人にとって実践的で実用的な講座。特殊塗装に挑戦するモチベーションが高まる」（受講者）と職人の共感も呼ぶ。

活況続く特殊塗装の市場

ARACO（旧社名・荒木塗装）は1980年に創業。一般建築塗装のかたわら、荒木俊成氏が独学で特殊塗装の技法を修めその分野に進出。テーマパークや高級ホテル、各種のショップなど商業建築のフィールドで著名な塗装会社で、特殊塗装のみならず造形から仕上げまで一貫して請け負える会社としても名が通っている。

荒木氏は、日本塗装工業会の事業で特殊塗装講座の講師を務めた他、東京塗料会館のデザインペイントリニューアルや業界3団体による「うめきた地下道～塗装ってスゴイ」の壁画プロジェクトにも主導的に参画。デコラティブペイントの第一人者として業界でも知られた存在だ。

荒木俊成氏

そんな荒木氏が今回、自ら特殊塗装の養成塾を開いたのは、「増え続ける需要に対して職人の数が圧倒的に足りないから」と説明。

特殊塗装が多用される各地のテーマパークで新アトラクションの建造が続いていることに加え、「ホテルや店舗など商業建築のシーンで以前にも増して特殊塗装がスペックされ、施工が逼迫。当社でも仕事を断らざるを得ない状況が続いている」と特殊塗装の需要が急増している状況に言及する。

「本物の木を使えないからコンクリートを木に見せてほしいといった防火や内装制限の理由の他、大手ゼネコンが自社の設計施工物件でスペックするほど特殊塗装への理解が進んできた」ことが背景にあるという。

コストや工期や標準化できないデメリットで特殊塗装を敬遠していた大手ゼネコンでさえ、「意匠やアートに対する市場の目が成熟するにつれて風向きが変わり、より高度な表現力へのニーズから特殊塗装が市民権を得てきた」とマーケットの変化を指摘。

「特殊塗装の技能を修得することで、職人さんが所得やステイタスアップを実現し、おもしろい仕事をできるフィールドが広がっている」と、"すご技職人"の養成を続ける意向だ。